

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター				変更又は改善内容				
0 相談支援事業所の概要		昨年度				今年度				
0-1 実施状況について										
法人名称	非営利活動法人 日常生活支援ネットワーク									
法人所在地	大阪市東淀川区3-6-10									
事業所名称	自立支援センターOSAKAぼらんぼらん									
事業所所在地	大阪市東淀川区3-6-10									
電話番号	06-6649-0421									
ファックス	06-6649-0421									
実施曜日	月～金									
実施時間	9:00～17:30									
同一場所で実施しているその他の事業	居宅介護（3F）、生活介護（1F）									
実施法人で実施しているその他の事業	放課後等デイサービス・児童発達支援									
事業所の特長	当事者性を重んじてスタッフが相談・カウンセリングに応じている。当事者として同じ目線で話を聞ける。他区から断られたケースの相談も引き受け孤立を防いでいる。季節ごとに障がい者の方が地域の方と触れあうイベントを行い、繋がり作りを重視している。									
0-2 事務室等について										
事務室	145.96㎡	<input checked="" type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用	<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用	<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用	<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用	
相談室	19㎡	<input checked="" type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用	<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用	<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用	<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用	
その他		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用	<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用	<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用	<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用	
0-3 職員の状況										
		常勤職員		非常勤職員		常勤職員		非常勤職員		
		専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	
			4人			4人		3人		
0-4 職員の勤務体制										
		管理者兼相談支援専門員1名（視覚障がい者） 相談支援専門員3名（うち2名車椅子） 月曜～金曜日の開所時間内に当事者スタッフ4名で相談支援を行っています。				管理者兼相談支援専門員1名（視覚障がい者）相談支援専門員3名（うち2名電動車いす）職場介助者・事務職員3名（非常勤）月曜～金曜日の開所時間内に当事者スタッフ4名、非常勤の職場介助者と事務職員（3名）相談支援を行っています。				
0-5 ビアカウンセリングの実施状況										
		障がい名	実施曜日	実施時間	障がい名	実施曜日	実施時間	障がい名	実施曜日	実施時間
		全障害 (身体・知的・精神・重複等を含む)	月曜～金曜	9:00～17:30						

事業所名	浪速区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
1 事業運営全般	昨年度	今年度
1-0 理念・基本方針		
	<p>情報社会と呼ばれる社会の中にあっても、制度や法で保証されているはずの「福祉」について、どこで何を言いにいけばいいのか知らない、どんなものがありどう使えばいいのか、そして自分の人生そのものを他人の手にゆだねて生きている感の障がい者の現状と問題は依然として続いているというのが、当センターのこれまでの活動を通じた実感です。</p> <p>自立支援センター・OSAKAぼらんぼらん（浪速区障がい者相談支援センター）は、障がい者自身の声を生かした介助派遣サービスをしてきたこれまでの活動の実績と経験を踏まえ、在宅福祉サービスの利用援助や社会資源の活用、社会生活力を高めるための支援・ピアカウンセリングや介助相談および情報の提供を総合的に行う大阪市障がい者生活支援事業を受託し、障がい者やその家族の地域における生活を支援し、障がい者の地域自立と社会参加を図っていくことを目的として、障がい者相談支援事業部を運営していきます。</p> <p>事業実施効果としては、以下の諸点が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長年自立生活を営んできたピアカウンセラー等の障がい当事者スタッフが、自らの経験を踏まえ個々の状況に応じた的確な相談及び行政制度や社会資源の活用などの情報提供等を行える。 ・ 諸機関の紹介を含め、障がい者支援に取り組む他機関・団体等との連携と協力することにより広範囲の中から選択肢が生まれ自分にあったサービスを選択できる。 ・ 他の障がい者の状況を掴み意欲と生活力が高まり、地域においてその人らしい自立と社会参加を促している。 ・ また障がい当事者が相談に乗り情報を提供する事で、心情や障がい者がおかれている状況を客観的にみる事ができるようになる。 ・ 障がい者の社会参加に家族の理解が生まれ、社会資源の有効な活用を促す事で、不安や負担も軽減できる。 ・ 専門分野（医療機関・旅行・福祉機器）相談には、嘱託配置をし協力体制を作っていることでスタッフの知識不足を補い、幅の広い相談にも応じられる。 <p>等々です。</p> <p>そして何よりも、もっと身近なものとして自分達の「生活」や「福祉」を取り戻しうまく活用し、一人一人が持つパワーを引き出すことで、よりいっそう多くの障がい者が、町の中へ飛び出して体験したことを生かし、交通機関や町の構造・制度・法を暮らしやすく使いやすいものに変えていくことができるという私たちの理念を、目的でありまた効果としたいです。</p>	

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-1 運営体制		昨年度		今年度	
1-1-① 事業運営の評価		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	事業の理念・基本方針を実現するための具体的な取り組みを示す中・長期的な計画が定められている。	4	<p>変遷する制度の最新情報を押さえながら、自立してる障がい者や施設に入所している障がい者、その家族の方々の相談に応じながら、必要なニーズの実現へ向けて他機関との連携を強化する・研修などに参加してスキルUPをする。等目標を立てた。</p> <p>毎月ミーティングで議題を決めて話し合いの場を設けている</p>	5	<p>今年度も新しい制度の情報を把握しながら、自立している障がい者・施設に入所している障がい者・新規にサービスを受けられる障がい者、そのご家族の相談に応じながら必要なニーズ・支援へ向けて他機関・事業所との連携の強化・研修や勉強会などに参加して情報収集やスキルの向上をUPする。等目標をたてました。</p> <p>毎月2回ミーティングで議題を決め、必要であれば随時会議を行う。研修に行った場合、報告会を行い皆に共有する場を設ける。</p>
b	中・長期的な計画を踏まえた年度ごとの事業計画を策定している。	4	<p>毎年4月～6月にかけて前年度の事業実施の評価を踏まえた事業計画（指定一般・指定特定・指定障害児相談）を策定している。</p> <p>今年度も相談ケースを丁寧に対応していく、他機関との連携を主に支援を行っていく。書類作成も増えてきたので書類整理をしていく目標をたてました。</p>	5	<p>今年度も同じく4月～6月ににかけて前年度の事業実施の評価や反省点を踏まえた事業計画（指定一般・指定特定・指定障がい児相談）を策定している。</p> <p>前年度で立てた取り組みの中で、他機関との連携を主に支援を行うといくことは達成できてきたが、後の相談ケースを丁寧に対応していく事や、書類整理もできていないので今年度も継続して目標として行っていきたい。計画相談も増えている中モニタリングも一回も行けてない利用者の方もおられるので、モニタリングをするということ新たに追加しました。</p>
c	中・長期計画、年度ごとの事業計画に基づき事業を実施し、その結果を評価している。	4	<p>毎年4月～6月にかけて前年度の事業を点検・評価した報告書を作成しており、NPO法人の総会に報告・提出している。委託相談が減ってるが、計画相談が増え、行政・事業所間との関係や連携を通しての支援が増えたことが評価された。</p>	5	<p>今年度も前年度の事業の点検・評価した報告書をNPO法人の総会に資料提出・報告をしました。前年度と同じく行政や他機関・事業所との連携を通じた支援が増えたことと、前年度減ってきていた一般の相談が増えてきた事など、役所や他機関との防災訓練を年3回行い、その中で障がい者の方の参加を交え対応の仕方や実際に障がい者の方と地域住民の方がふれあう場を設けたことを評価されました。</p>
d	事業の評価の結果は、次期計画に反映している。	4	<p>総会で受けた評価をもとに事業計画の見直しをしながら次期計画に反映している。</p> <p>前年度の評価を通して、委託相談の件数が減っていく中、全体的にどの様な支援を行っていくかという所で前年度で高評価を受けた他機関・事業所との繋がりを強化することを今年度にも反映しました。</p>	5	<p>今年度も総会で受けた評価をもとに事業計画の見直しをしながら次期計画に反映している。</p> <p>総会で高い評価を受けた、他機関・事業所との繋がりを強化することを継続して行い、計画相談と委託の相談が増えていく中内部の連携（書類のチェックや作成・担当者がいなくても対応できるよう）も行っていけるように反映しました。</p>

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2 適切な相談支援の実施		昨年度		今年度	
1-2-① 自己決定の尊重		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	必要な情報を理解できるように提供するとともに、体験、経験する機会を設けるなど利用者が主体的に自己決定するための条件整備に努めている。	4	利用者に合わせた方法、本人ベースで対応し、絵や写真などを活用した説明資料を作成している。又、本人のエンパワーメントを高めるために、まず本人さんがしたいことを確認しながら取り組む様になっている。繋がり作りも継続した相談が成立する条件となる為、レクリエーションとしてケーキ作りや、花見・遠足・旅行・クリスマスライブに参加してもらっている。		
b	障がいに応じたコミュニケーション手段を保障している。	3	日常的に文字盤やアイコンタクトコミュニケーションに通じている。但し、聴覚障がい者からの相談がないので、手話に対する対応が不十分である。 筆談とかでも対応できるが、手話とか指文字も勉強し役立てていきたい。	4	前年度で手話に対する対応が不十分の評価していたが、聴覚障がいの方の対応する機会が徐々に増えてきたので、不慣れながらも手話や筆談でコミュニケーションを取っている。 手話や指文字の勉強を継続して役立てていきたい。
1-2-② エンパワーメントの重視		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談支援を進めるにあたっては、常に利用者のエンパワーメントが図られるよう努めている。	4	ピアカウンセリングにより相談者の心の整理や問題点の気づきを促していく。繋がり作りの視点から、年に数回、体験交流会（レクリエーション）参加を通して、ご本人のQOLを高めてもらっている。		

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2-③ コミュニケーションに関する配慮		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	意思伝達に制限のある人の場合、手話や点字、筆談、映像を利用するなど、その人に合った個別のコミュニケーション手段を検討し、それに基づく対応を行っている。	4	相談者のコミュニケーション方法やペースに合うように徹している。只、聴覚障がい者からの相談がほとんどないので、手話に対する意識が不十分である。	5	聴覚障がい者の方からの相談も増えてきており、不慣れながらも手話と筆談を通して対応を行っている。
					個別のコミュニケーションは様々だが、本人さんの気持ちの理解や相談者の気持ちをうまく伝えて行くよう努力したい。
b	一度の面接では意思確認等が困難であるような、著しく意思伝達に制限のある人の場合、日常的な関わりを通じて、その人固有のコミュニケーション手段やサインの発見と確認を心がけている。	4	相談者の意思の確認ができるように、複数回の相談を行い、その人固有のコミュニケーション手段やサインの発見と確認を心がけている。	5	本人が落ち着く場を作り、何回も相談の場を設けている。必要なら相談者のキーパソン（家族・事業所の方）となられる方も呼び出して、その方の固有なコミュニケーション手段やサインの発見と確認に心がけている。
c	意思伝達に制限のある人の場合、他機関職員との連携や、本人が信頼できる知人、代弁者、手話通訳者等を受け入れるなど、コミュニケーションを行う環境に配慮して、その人の意思や希望をできるだけ正しく理解しようと努力している。	4	本人のキーパソンとなる人物と事業所との連携を事前にとっている。	5	本人が以前に関わってきた事業所の担当者や他機関職員と本人も交え会議を行い、その利用者の意思や希望を正しく理解しようと努力している。

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2-4 権利擁護		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談支援を進めるにあたっては、常に利用者の立場を擁護し、ニーズ表明を支援・代弁することにより、問題解決力や様々な支援を活用する力を高めているような支援に努めている。	4	ピアカウンセリングによって本人の心の整理や問題点の気づきを援助したり、ロールプレイを活用して表現する力を引き出せるような支援に取り組んでいる。		
b	人権侵害が発生した場合にはその解決のために積極的に対処している。	2	今のところ、そういう事がおこっていないが関係機関の連絡先を把握している。		
			もし、そういう事が発生した場合は、相談者からの訴えを把握しつつ事実確認を行い、必要に応じて関係機関に働きかける。		
c	虐待が危惧される場合は、関係行政機関と連携し適切な対応を行っている。	4	虐待と思われるケースは、すぐに浪速区役所の担当者に連絡をしている。高齢者・障がい者虐待防止連絡会議に参加し情報収集や関係機関との連携強化を図っている。		

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-3 地域・他機関との交流・連携		昨年度		今年度	
1-3-① 他関係機関との連携		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	担当区域の地域自立支援協議会に積極的に参加し、様々な取組を提案するなど、協議会の活性化に努めている。	4	浪速区役所の担当者と連携をとりながら、自立支援協議会の内容を相談し、参加している。今年度は防災についての取組を提案。収容避難所の開設訓練には障がいのある方の参加によって当事者目線の立場で支援の重要性と何が必要かを具体的に示すことを行った。	5	浪速区役所の担当者の方と事前に話し合いの場を設け会議の内容を決め参加していた。防災訓練を年3回行い地域の方や自治会の方の参加もあり活性化に努めた。
b	協働する関係機関や関係団体等が増え、連携が深まっている。	4	浪速区の各機関が行っている会議（自立支援協議会・浪速区施設連絡会等）や行事（浪速区民祭り等）に積極的に参加をしている。 各関係機関に訪問する機会を設けたい。	5	各機関が行っている定例会議（自立支援協議会・浪速区施設連絡会）や行事など必ず参加し、今回は防災訓練などを通して各関係機関との連携が深まった。 今後も各関係機関との交流の場をふやしていきたい。
1-3-② 地域の障がい者の状況把握		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談者に限らず、地域の障がい者を取り巻く状況や課題はおおむね把握できている。	4	関係機関・事業所等の情報を通して把握している。 支援者とのつながりはあっても、地域とのつながりは弱いので、地域とのつながりを強化していきたい。		
b	障がい者支援機関のみならず地域の福祉・労働・教育・保健医療機関と定期的な会議を開催する等によって、ニーズの把握に努めている。	4	自立支援協議会などで、各機関の情報を把握しているが、定期的な会議を開催できていない。		

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
	アウトリーチ活動に取り組むことにより、ニーズの把握に努めている。	4	地域の町内会の行事に参加したり、居宅事業所・施設などの訪問を行い相談支援センターの認知度を高め、関係づくりや課題把握に努めている。		
1-3-③	地域の社会資源の把握	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	サービス提供事業所や専門相談機関を把握している。	4	最新の事業所情報の把握と各機関の特徴などを記録したファイリングを行っている。	5	計画相談が増える中、サービス提供事業所や専門相談の方と利用者を通して知り合う機会が多くなり把握している。
b	学校園・ハローワークなど関連機関の情報を収集している。	4	ハローワーク等が実施する各種職業訓練等の情報が随時送られてくる。その情報を白板などに張り付けている。		
c	民生委員、地域ネットワーク委員、ボランティア団体などを把握している。	4	相談を通して関係作りに努めている。	5	一般の相談や計画相談の中で、利用者さんの相談で電話や訪問する機会があり連携がとれており把握している。 担当者が変わっても同じ連携が出来るよう努めていきたい。
d	駅や図書館、スポーツセンターなどの公共施設や、金融機関や飲食店、商店などの民間施設、障がい者用トイレやエレベーター等の設備の情報を収集している。	4	情報を収集しながら実際に現場に行き行ってチェックしたり、飲食店などにバリアフリーかどうか電話でチェックしている。またインターネットで調べて相談者に情報提供している。		

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-3-④ 社会資源の改善・開発に向けた取組み		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）
a	既存のサービスの活用だけでなく、既存の社会資源の「改善」や新たな社会資源の「開発」に向けて取り組んだ。	1	過去にはできていたが、計画相談支援の方が忙しくて、現時点でできていない。		
			その為の時間を作って、取り組んでいきたい。		
1-3-⑤ 支援困難事例への積極的な対応		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）
a	多問題を抱えた事例や、問題が長期にわたって継続し、解決の糸口を見つけないことが困難な事例など支援困難事例への対応を積極的に行っている。	5	困難事例の対応を積極的に行っている、また皆で情報を共有し誰でも対応できるよう努めている。後、他区が断ったケースも引き受けることがある。		
1-3-⑥ 地域住民への周知・啓発的活動の実施		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）
a	障がい者相談支援センターは、自らの役割について地域住民に対して積極的な周知を図っている。	4	チラシを作って、各関係機関においてもらっている。またイベントがある場合に近所のコンビニや飲食店などにチラシを置いてもらったり、ポスターを張ってもらっている。	5	地域の清掃や自治会などの会議などに参加したり、イベントがある時は毎回近くの飲食店やコンビニにチラシやポスターを張ってもらっている。
					継続して地域の行事やイベントに参加していく。
b	地域住民との交流や講演会の開催等を通じて、障がい者が地域で共に生きていく意義をはじめ、啓発的活動に積極的に取り組んでいる。	5	年に三回（花見・収穫祭・クリスマス会）、障がい者の方と地域の方が交流できるイベントを開催している。今年は、被災についての映画上映会と講演を行いました。	5	毎年行っているイベント（花見・収穫祭・クリスマス会）も含め、自立支援協議会主催で防災訓練を行い地域の方と障がい者の方が一緒に訓練する機会を設けました。

事業所名	浪速区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
1-4 その他の取組み	昨年度	今年度
	<p>(取組内容) 継続的なレクリエーションの実施 (参加者数は障がい者・健常者の合計数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お花見(4月・約120名) バーベキュー(10月・約100名) ・ 宿泊レクリエーション 徳島旅行(1回目 9月 20名、2回目 3月 6名) ・ クリスマスライブ(12月 場所 アルフィック大阪 約100名) <p>(ねらい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レクリエーションを通して障がいがある無しに関わらず、同じ空間で楽しめる場を作る。 ・ 障がい者が家族や施設職員以外の人と触れ合う場を作る。 ・ 障がいによっては「奇声が出てしまう」や「動き回ってしまう」などで、普通のコンサートやイベントなどに行きたくても行けないという状況があり、どんな障がいがあっても生の音楽等を楽しめる場を作る。 ・ 遠出は無理という概念を打ち消すような企画を実施することで、誰もが気兼ねすることなく外出ができるということは障がい者はもちろん家族や関係者に希望を与え、全ての移動手段の機関に訴える突破口に繋がる。 ・ 以上の観点で、障がい者の心のゆとりや活力の向上を図る。同時に、障がい者が外出することにより、公共交通機関や近隣の店舗、並びに地域住民への理解向上を図り、ハード面及び、心のバリアフリーを目的としている。 <p>(効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レクリエーションを通して、同じ空間で障害がある無しに関わらず、自然に触れ合うことにより、障害の理解へとつながる。また、障害者が日常生活を送るにあたり、積極性の向上を促し、いきいきとしたライフスタイル作りのきっかけとなる。 ・ 旅行企画によって、自分たちで計画して旅行に行く人が増えたり、旅行に対して不安がなくなってきたとの声もあがってきている。 	<p>(取組内容) 継続的なレクリエーションの実施(参加者数は障がい者・健常者の合計数)① お花見(4月・約100名)収穫祭(バーベキュー)(10月・約80名)②宿泊レクリエーション 沖縄旅行(6月・16名)③クリスマスライブ(12月ピース大阪) 今年はお花見の準備に参加する利用者の方が多く、おにぎりを作る作業や配膳するお手伝いをしてくれ、社会生活を養う経験も得られとても良かった。計画相談支援対象者の方や他区の事業所などの参加もあり新たな交流の場を設ける事ができ、毎年来られてる利用者の方より「いつもより楽しかった」「来年もお手伝いしたい」という言葉を頂いた。後、宿泊レクリエーションでは沖縄に行き、初の飛行機での移動となった。車いすでの参加者が4名いたので、航空会社の方と一緒に飛行機内での移動・移乗を共同作業で行いお互いに学びあう機会ができた。沖縄には2泊3日の滞在であったが、どこに行っても大阪では滅多に経験のできない沖縄の人のナチュラルサポート(声を掛けなくても、見かけただけで自発的に助けてくれる行動)を受けることによって、車いすでも楽しい旅行ができた。この旅行の経験で、車いすでも飛行機旅行ができるという自信がついて、自分で計画を立て飛行機で旅行に行くかたもおられた。クリスマスイベントでは、毎年様々なゲストを呼び歌や芸を楽しむ機会を設けていたが、今回は見る立場であった利用者さんが皆と一緒に歌や芸を披露する場もあり、とても良いクリスマスイベントになった。今年度はイベントを通して、いろんな人との触れ合う場やエンパワーメントを高める経験が多かった。</p>

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター										変更又は改善内容									
2 日々の相談支援業務		平成24年度																			
2-1 継続支援対象者数																					
①継続的な委託相談支援を行った実人数（指定相談支援を除く）																					
障がい種別		前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数	前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数	前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数	前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数	前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数
身体障がい	視覚	2			2	2				2				2				2			2
	聴覚																				
	肢体	12	1		13	13				13		1		12				12			12
	内部																				
	計	14	1	0	15	15	0		1	14				14				14			14
知的障がい		2			2	2				2				2				2			2
精神障がい		3			3	3				3				3				3			3
障がい児		1			1	1				1				1				1			1
重複障がい		6			6	6				6				6				6			6
その他																					
合計		26	1	0	27	27	0	1	26	27	0	1	26	27	0	1	26	27	0	1	26
②指定特定相談支援を実施した実人数		身体障がい	知的障がい	精神障がい	重複障がい	計	身体障がい	知的障がい	精神障がい	重複障がい等	計	身体障がい	知的障がい	精神障がい	重複障がい等	計	身体障がい	知的障がい	精神障がい	重複障がい等	計
		17人	5人	20人	10人	52人	39人	8人	26人	3人	76人	39人	8人	26人	3人	76人	39人	8人	26人	3人	76人
2-2 相談支援内容		平成24年度										平成25年度									
①延べ相談件数		身体障がい					知的障がい	精神障がい	重複障がい	その他	計	身体障がい					知的障がい	精神障がい	重複障がい	その他	計
		視覚	聴覚	肢体	内部	計						視覚	聴覚	肢体	内部	計					
福祉サービスの利用援助		4	0	43	0	47	23	13	3	3	89	1	3	22	2	28	8	6	1	8	51
うち、継続的な支援対象者の件数		1	0	22	0	23	2	0	0	0	25	0	0	10	0	10	2	2	0	4	18
社会資源を活用するための支援		8	0	70	2	80	23	19	11	84	217	4	3	31	0	38	25	10	6	6	85
うち、継続的な支援対象者の件数		0	0	11	0	11	0	0	2	0	13	0	2	13	0	15	3	1	1	0	20
社会性活力を高めるための支援		2	0	43	0	45	18	5	10	0	78	3	0	37	0	40	19	7	8	113	187
うち、継続的な支援対象者の件数		2	0	39	0	41	6	5	5	0	57	1	0	10	0	11	0	3	8	0	22
ピアカウンセリング		1	0	49	0	50	6	496	1	1	554	0	0	5	0	5	6	907	3	1	922
うち、継続的な支援対象者の件数		0	0	41	0	41	1	473	0	0	515	0	0	0	0	0	1	876	3	0	880
権利擁護のために必要な援助		1	0	1	0	2	1	0	0	0	3	0	0	3	0	3	1	2	0	0	6
うち、継続的な支援対象者の件数		0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	2	0	2	1	0	0	0	3
専門機関の紹介		0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち、継続的な支援対象者の件数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		1	0	6	0	7	2	2	1	5	17	0	2	0	0	2	1	8	6	8	25
うち、継続的な支援対象者の件数		0	0	1	0	1	0	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	5	0	0	5
合計		17	0	212	2	231	73	536	26	94	960	8	8	98	2	116	60	940	24	136	1276
うち、継続的な支援対象者の件数		3	0	114	0	117	10	479	8	0	614	1	2	35	0	38	7	887	12	4	948
②相談の実施方法		来所相談	電話相談	訪問相談	その他	合計	来所相談	電話相談	訪問相談	その他	合計	来所相談	電話相談	訪問相談	その他	合計	来所相談	電話相談	訪問相談	その他	合計
		703件	143件	75件	7件	928件	1,122	85件	26件	14件	1247件	1,122	85件	26件	14件	1247件	1,122	85件	26件	14件	1247件

事業所名	浪速区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
2-3 日々の相談件数の分析	<p style="text-align: center;">平成24年度</p> <p>今までの相談支援事業と違い、計画相談支援（浪速区にお住いの方のプランニング作成）も入ってきたため相談件数としては減っていった状況である。（計画相談支援に関する事柄は相談件数には入れられない為）障がい種別で見ると、精神の方の相談件数が相変わらず増えている状態です。内容としてはピアカウンセリングが多く電話・来所など一日に何件もある。</p>	<p style="text-align: center;">平成25年度</p> <p>前年度に比べ、一般の相談の方では継続的な支援者数が増えており障がい種別で見ると精神の方の相談が多くなっている。主にピアカウンセリングで、内容としてはヘルパー事業所さんとのトラブルや人間関係・将来の自分の人生・就労の事である。前年度に比べ、ほかの障がいの方の相談が減少している。その理由は他区からの相談が多かった為、相談者の居住区内で相談できるように各区の相談機関に繋げていった為である。新たに聴覚障がいの方からの相談もあり手話や筆談で相談の対応する機会も増えた。相談の方法も来所が多くなっており、役所や他事業所などの紹介・パンフレットを見て相談に来られるケースが増えている。上記にあったように他区からの相談も相変わらず増えているが、計画相談の対応に追われる日々が続いており場合によっては同区の相談機関に繋げる様になっている。</p> <p>今年度も計画相談支援の件数も増えており、新規・更新・モニタリングも含めかなりの数となっている。今年度は障がい種別で見ると、身体の方が増えている。サービス付き高齢者マンションに在宅されている方が半数近くいるためサービスにも繋げやすい状態である。新規のヘルパー探しでもヘルパー事業所との関係が出来てきた為、すぐに利用者の方にサービスを受けてもらえるようになった。サービス利用計画を作成してサービスに繋げても、その後の支援が大変で特に精神の方の対応に時間がかかっている。全体を通して前年度と同じ計画相談支援の方で動きがメインとなっている状況である。</p>

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター				変更又は改善内容				
2-4 住宅入居等支援事業の実施状況		平成24年度				平成25年度				
①実施状況		入居斡旋件数	登録者数	緊急対応件数	入居斡旋件数	登録者数	緊急対応件数			
	身体障がい									
	知的障がい									
	精神障がい									
	重複障がい									
	その他									
	計	0件	0人	0件	0件	0人	0件			
②緊急対応の内訳		時間帯別		平日・休日別		時間帯別		平日・休日別		
	夜間出動			休日出動		夜間出動		休日出動		
	日中出動			平日出動		日中出動		平日出動		
	合計	0件		合計	0件	合計	0件	合計	0件	
	出動要請者		出動内容		出動要請者		出動内容			
	本人		病気・けが等の発生		本人		病気・けが等の発生			
家主		精神症状の悪化		家主		精神症状の悪化				
近隣		日常生活上のアクシデント		近隣		日常生活上のアクシデント				
警察・消防		家事・災害等		警察・消防		家事・災害等				
医療機関		近隣からのクレーム		医療機関		近隣からのクレーム				
その他		その他		その他		その他				
2-5 業務委託料の収支精算について		平成24年度				平成25年度				
①歳入		金額	内訳	金額	内訳					
	科目									
	業務委託料	12,750,000円		13,232,000円						
	預金利息	0円								
	その他	0円								
	合計	12,750,000円		13,232,000円						
②歳出		金額	内訳	金額	内訳					
	科目									
	人件費	8,092,000円		8,635,200円						
	常勤職員人件費	6,240,000円	130,000円×12ヶ月×4名	6,835,200円	142,400円×12ヶ月×4名(相談支援専門員)					
	非常勤職員人件費	1,200,000円	50,000円×12ヶ月×2名	1,080,000円	45,000円×12ヶ月×2名					
	その他	652,000円	職場介助者、相談アドバイザー	720,000円	職場介助者、相談アドバイザー					
	物件費	4,658,000円		4,596,800円						
	法定福利費			762,000円	63,500円×12ヶ月					
	消耗品費			201,570円						
	印刷製本費			50,000円						
	光熱水費			384,000円	32,000円×12ヶ月					
	通信運搬費			120,000円						
	手数料			1,680円						
	燃料費			120,000円	10,000円×12ヶ月					
	使用料(リース代)			180,000円	15,000円×12ヶ月					
	不動産賃借料			2,400,000円	200,000円×12ヶ月					
	備品購入費			66,130円						
	負担金			25,000円						
	修繕費			10,920円						
	研修費			101,200円						
	活動交通費			114,300円						
福利厚生費			60,000円							
	合計	12,750,000円		13,232,000円						

事業所名	浪速区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容
3 区における地域課題について			
区における全般的な課題についての現状認識及びその解決・改善に向けた提案・提言など	昨年度	今年度	
	/		浪速区では障がい者に関する社会資源が少なすぎる、例えば日中活動の場（生活介護）やグループホーム。

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
4 自己評価を終えて		昨年度	今年度
4-1 区協議会での報告			
	報告日	2013年11月20日(水)	2014年11月26日(水曜日)
	出席者からの意見		なし
	0 相談支援事業所の概要	浪速区役所の方より、建物はわかるが、事業所の名前がわかりにくいので、のぼりをつけたらどうかと提案がありました。	特記なし
	1 事業運営全般	事業計画について、期間が4月～6月にまとめてしているので、中間期の事業計画もした方がいいのでは？という意見が出ました。	特記なし
	2 日々の相談支援業務	人権侵害の項目で評価が低かった為、各機関の把握や事業所として過去に経験もあるので、もうちょっと評価を上げてもいいのではないかと意見がでました。	特記なし

事業所名		浪速区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
	3 区における地域課題について		特記なし

事業所名	浪速区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容
4-2 一連の自己評価のプロセスを終えて	昨 年 度		今 年 度
	<p>自己評価を終えて、委託だけの相談業務とは違い計画相談も入ってきたので、評価をするのが難しかった。また評価をすることによって、自分たちの強いところ弱いところを再確認できた。特に、公的機関や事業所などの連携が昔と比べて良くなってきている。支援者との繋がりはあるもの地域との繋がりが弱いので強くしていきたい。</p>	<p>今年度は、前年度のデータもあったので評価しやすかった。前年度と比べて障がい種別の幅も広がったり、各関係機関や事業所などの関係が深まり連携も取れてきた。そのおかげで地域の方との繋がりも徐々にできてきており評価が上がってきている。でも、まだまだ評価が低いままのものもあり、自分たちの弱さを知る所である。評価が上がってるものに対して下がらないよう、評価に変更のないままのものに対して上がるよう頑張っていきたい。</p>	